SOKKIA

Series SRX
NET05
NET1
SETX
NET05X

SFX ダイヤルアッププログラム

プログラム解説書

はじめに

このたびは、Series SRX、NET05/1、SETX、NET05X をお買い上げいただき、ありがとうございました。

- ご使用に際しては、このプログラム解説書をよくお読みいただき、つねに適切な取り扱いと正しい操作でご使用くださいますようお願いいたします。
- 扱いやすく、より良い製品をお届けするため、常に研究・開発を行っております。製品の仕様等については改良のため予告なく変更されることがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 掲載のイラストは、説明をわかりやすくするために、実際とは多少異なる表現がされています。あらかじめご了承ください。
- 本ソフトウェア使用に際して生ずる利益または損失について、株式会社ソキア・トプコン（以下「弊社」といいます）は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 弊社は、本解説書に関し、日本国内における譲渡不能の非独占権利をお客様に許諾し、お客様もご同意いただくものとします。
- 本解説書の全部または一部の無断複写複製を禁じます。（著作権法上の例外を除きます）
- お客様に本解説書の改変、改良、翻案等の二次的著作物の作成および利用することについては許諾いたしません。

●取扱説明書の構成

- この製品の説明は、機能ごとに複数に分かれています。それぞれの取扱説明書と併せてご覧ください。
  ☞ Series SRX、NET05/1、SETX、NET05X 取扱説明書「本書の読み方」

●記号について

本書では、説明の中で次のような記号を使っています。

〈ウィンドウ〉など	：ウィンドウのタイトルを示します。
【ボタン】など	：各ウィンドウに表示されているボタンを示します。
「器械点」など	：各ウィンドウに表示されている内容を示します。
	：使用上の注意事項や重要な情報を示します。
☞	：参照する説明書および章タイトルを示します。
備考	：補足説明を示します。
解説	：用語や観測方法の解説を示します。

●本書の記述について

本書で使用している用語の定義や記載内容のルールは以下のとおりです。

- 特に記述がない限り「SRX」や「Series SRX」は「SRX1X/2X/3X/5X/5XS」を、「NET」は「NET05/1」を意味します。
- 「トータルステーション」は、「Series SRX/NET/SETX/NET05X」を意味します。
- 画面やイラストは「SRX3X 自動追尾タイプ」をもとにしています。
- トータルステーションは、表示させるタブ、項目、文字なども変更することができます。本文中の操作や表示は、工場出荷時の設定で説明します。☞ トータルステーション取扱説明書「21. **各種設定**」

- この取扱説明書に記載されております「TSS」または「TSS フォーマット」は、日本測量機器工業会で「APA-SIMA フォーマット」と呼称を変更しております。

- *Bluetooth*® は Bluetooth SIG, INC. の登録商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は各社の商標または登録商標です。

●使用上のお願い

・データの消失などを防ぐため、定期的に測定データのバックアップ（データの外部機器への転送など）をしてください。

●免責事項について

・火災、地震、第三者による行為、その他の事故、使用者の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害に対して、当社は一切責任を負いません。
・本機器の使用または使用不能から生じた付随的な損害（データの変化・消失、事業利益の損失、事業の中断など）に対して、当社は一切責任を負いません。
・取扱説明書で説明された以外の使い方によって生じた損害に対して、当社は一切責任を負いません。
・接続機器との組み合わせによる誤動作などから生じた損害に対して、当社は一切責任を負いません。

目　　次

1. 概要 1
1.1　機能概要 1
2. 各機器の接続 2
2.1　必要なもの 2
2.2　各機器の接続 3
3. ダイヤルアップ接続の準備 4
3.1　起動と終了 4
3.2　通信条件の設定 5
3.3　メールアドレスの登録 8
4. メールの送受信をする 9
4.1　メールの送信～座標データ／JOB データ 9
4.2　メール受信～座標データ 11
4.3　トータルステーションへのメール送信 12
4.4　トータルステーションからのメール受信 13
5. エラーメッセージ 14
6. こんなときは 16

1. 概要

1.1 機能概要

SFX ダイヤルアッププログラムは、ソキアのトータルステーションと携帯電話を接続することで、トータルステーションのデータを電子メールの添付ファイルにして送信したり、座標データが添付された電子メールを現場で受信して、トータルステーション SDR モードの現場（JOB）に追加登録したりすることができます。

測量に必要なデータはすべて、現場にいながらやり取りすることができます。

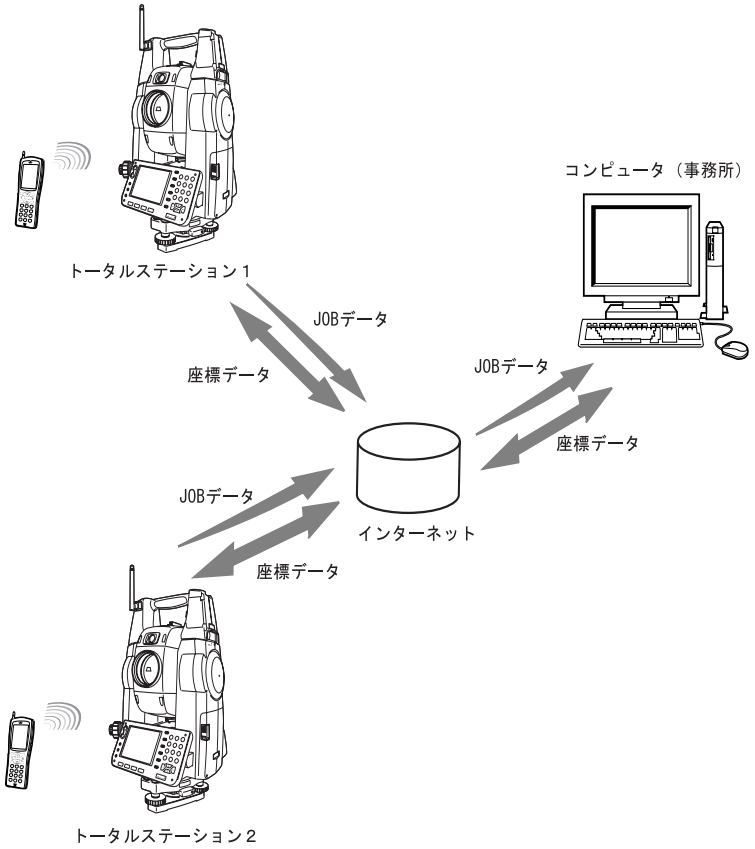
例 1　電子メールで測量データを送れるので、測量データをコンピュータに転送するために、事務所に戻る必要がなくなります。

例 2　測量に必要なデータを現場で受信できるため、杭打ちデータなどをダウンロードしてから現場に向かう必要もありません。

例 3　現場のデータを事務所に送ってデータ処理をしてもらえば、現場を離れずに観測の良否を知ることができます。再測や観測の欠落にも、すぐ対応できます。

例 4　トータルステーション同士で、電子メールによって座標データをやり取りすることができるので、現場で作業分担するなど臨機応変に対応できます。

・お客様のコンピュータでプロバイダーとメールアドレスをトータルステーションに設定するための無料のツール「SFXconf」が用意されております。詳しくは最寄りの営業担当にお問い合わせください。



2. 各機器の接続

2.1 必要なもの

SFX ダイヤルアッププログラムをお使いになるには、トータルステーション（本体）の他に、以下のものが必要です。

●携帯電話・スマートフォン

Bluetooth 無線技術の DUN（ダイヤルアップネットワーク）プロファイルに対応している必要があります。

・ 弊社は、すべての *Bluetooth* 対応機との通信を保証するものではありません。

●メールアドレス

メールの送受信をするために、トータルステーションに割り当てるメールアドレスが必要です。トータルステーション側でメールの送受信の設定をするときには、プロバイダーから提供されるアクセス方法に関する情報が必要になります。

備考

・ その他携帯通信事業者が提供するインターネット接続サービスを利用できます。
- NTTdocomo ..... mopera、mopera/U（有料）
- au ..... au.net
- softbank ..... モバイルデータ通信
- イーモバイル ..... EMnet
- WILLCOM ..... PRIN

送受信したデータの量（パケット）に応じて、データ通信料金が発生します。詳細はご使用になる携帯通信事業者にお問い合わせください。

2.2 各機器の接続

各機器は、以下のように接続します。

備考

・ 接続する前には、トータルステーションと携帯電話の電源を ON にしてください。
・ 接続に使用する携帯電話は、あらかじめトータルステーションに登録しておく必要があります。

☞ トータルステーション取扱説明書「*Bluetooth* 通信の設定」

Bluetooth デバイス内蔵
携帯電話

3. ダイヤルアップ接続の準備

3.1 起動と終了

☞ SDR8 サーベイの起動と終了、モードの切り替えについて詳しくは、トータルステーション「SDR8 サーベイプログラム解説書」をご覧ください。

▶手 順　起動

1. ダイヤルアップ接続メニューに入る
＜ SDR8 ＞で「ダイヤルアップ」を選択します。

通信中は次の操作ができません。電源は ON/OFF できますが、通信中は電源を OFF にしないでください。

- 割り込みモードへの移動
- ステータスバーの変更
- ソフトキーの割り付け変更

▶手 順　終了

1. 各画面で〔ESC〕を押す
＜ SDR8 ＞に戻るまで、〔ESC〕を繰り返し押します。

3.2 通信条件の設定

メールの送受信を行うために、インターネットプロバイダーの情報を登録します。

・プロバイダーの登録
・通信設定
・トータルステーションと携帯電話との通信

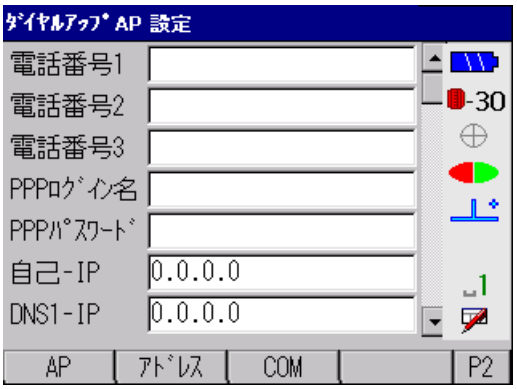
備考 設定内容の保存

・SFX ダイヤルアッププログラムでは、ソフトキー2 ページ目で【OK】を押すと、設定した情報が保存されます。設定後および設定した内容の変更後は、SFX ダイヤルアッププログラムを一旦終了して内容を保存してください。次に起動したときには、設定した条件でダイヤルアップ接続ができます。

▶手 順 プロバイダーの登録

メールの送受信を行うために、インターネットプロバイダーの情報を登録します。

1.＜ダイヤルアップ メール送信／メール受信＞で【通信条件】を押す
＜ダイヤルアップ AP 設定＞が表示されます。



2.各項目を入力する
設定する項目は以下のとおりです。＊印の項目は、インターネットプロバイダーから提供される情報です。ご不明の場合は、ご契約のインターネットプロバイダーにお問い合わせください。

・**電話番号 1～3＊**
アクセスポイントの電話番号を入力します。電話番号は 3 つまで入力できます。携帯電話をご使用の場合は、市外局番から入力してください。ハイフンは省略可能です。
・**PPP ログイン名＊**
AP（アクセスポイント）接続のログイン名を入力します。
・**PPP パスワード＊**
AP（アクセスポイント）接続のパスワードを入力します。
・**自己 IP アドレス＊**
IP アドレスが割り当てられている場合に入力します。サーバーが自動的に割り当てたアドレスを使う場合は、0.0.0.0 と入力します。

・**DNS1, DNS2 ＊**
DNS サーバーのプライマリーアドレス（DNS1）とセカンダリーアドレス（DNS2）を入力します。サーバーが自動的に割り当てたアドレスを使う場合は、0.0.0.0 と入力します。
・**POP サーバーアドレス＊**
POP サーバーの IP アドレスを入力します。
・**SMTP サーバー名＊**
SMTP サーバー名を 32 文字以内で入力します。

- **自己メールアドレス＊**
  トータルステーションに割り当てたメールアドレスを入力します。
- **POP ログイン名＊**
  POP サーバーのログイン名を入力します。
- **POP パスワード＊**
  POP サーバーのパスワードを入力します。
- **タイムアウト**
  サーバー接続時のタイムアウトを秒単位で設定します。
- **メールを残す**
  受信したメールをメールサーバーに残す場合はチェックをします。
- **POP before SMTP**
  ユーザー認証に POP before SMTP 方式を使用する場合はチェックをします。インターネットプロバイダーの設定にしたがってください。
- **SMTP AUTH**
  ユーザー認証に SMTP auth 方式を使用する場合はチェックをします。インターネットプロバイダーの設定にしたがってください。
- **OP25B**
  OP25B を使用する場合はチェックをします。インターネットプロバイダーの設定にしたがってください。
- **追加の初期化コマンドを使う**
- **追加の初期化**
  必要な場合はチェックをして入力します。「SFXconf」を使うと、お使いの電話会社を選択することで追加の初期化コマンドが設定されます。

3.設定を終了する
ソフトキー 3 ページ目の【OK】を押して設定を終了します。

解説 POP before SMTP と SMTP auth

SMTP サーバーのユーザーか否かを判定するための仕組みです。

自分宛のメールを管理している POP サーバーには、ユーザー認証の仕組みがありましたが、メールを送るための SMTP サーバーにはユーザー認証の仕組みがありませんでした。

そこで、POP サーバーにユーザー認証できたユーザーだけ一定時間 SMTP サーバーの接続を許可する仕組みを「POP before SMTP」と言います。この方法だと、今まで使っていたメールソフトがそのまま利用できるメリットがあります。ただし、ユーザー ID やパスワードに暗号がかかりません。そのためユーザー ID やパスワードが盗聴されてしまう危険性が残ります。

そこで SMTP サーバーにもユーザ認証機能を持たせものが、「SMTP auth（SMTP Authentication）」です。ユーザー ID とパスワードを暗号化する方法に LOGIN、CRAM-MD5、PLAIN 等があます。

解説 OP25B(Outbound Port25 Blocking)

接続プロバイダーが迷惑メールの送信を防止するためにメールの送信を制限する仕組みです。

ユーザーがプロバイダーの SMTP サーバーからメールを出す場合は問題ないですが、プロバイダーのネットワークの外にある SMTP サーバーを利用しようとしたとき、プロバイダーはこれを遮断します。

このような場合、通常 SMTP プロトコルで使われる 25 番ポートではなく、サブミッション・ポート（587 番ポート）を経由して送信することで、プロバイダーの外にある SMTP サーバーからメールを出すことができます。通常 SMTP 認証と併用して運用されています。

▶ 手 順　通信設定

通信条件の設定をします。

1. ＜ダイヤルアップ COM 設定＞を表示させる
＜ダイヤルアップ AP 設定＞で【COM】を押します。

2. 各項目を選択する
各項目を選択して、通信方法の設定をします。

あらかじめ登録してある *Bluetooth* 機器を選択することができます。

☞ トータルステーション取扱説明書**「*Bluetooth*通信の設定」**

備考

・ プロバイダーやメールアドレスなどを登録するために、弊社の設定ツールを使ってコンピュータと接続する場合は「PC 通信」にチェックをつけます。

3. 設定を終了する
ソフトキー 3 ページ目の【OK】を押して設定を終了します。

3.3 メールアドレスの登録

あらかじめ、送信するメールアドレスを登録しておきます。登録できるアドレス数は、5 件です。

備考 設定内容の保存

- SFX ダイヤルアッププログラムでは、ソフトキー 3 ページ目で【OK】を押すと、設定した情報が保存されます。設定後および設定した内容の変更後は、SFX ダイヤルアッププログラムを一旦終了して内容を保存してください。次に起動したときには、設定した条件でダイヤルアップ接続ができます。

▶ 手 順

1. ＜ダイヤルアップ　送信先メールアドレス設定＞を表示させる

＜ダイヤルアップ AP 設定＞で【アドレス】を押します。

現在登録しているメールアドレスが表示されます。

2. メールアドレスを入力する

アドレスを入力します。

3. 設定を終了する

ソフトキー 3 ページ目の【OK】を押して設定を終了します。

- プロバイダーの登録を続けるには、ソフトキー 2 ページ目の【AP】を押します。
- 通信条件の設定を続けるには、ソフトキー 2 ページ目の【COM】を押します。
- メールの送信をするには、ソフトキー 1 ページ目の【メール送信】を押します。
- メールの受信をするには、ソフトキー 1 ページ目の【メール受信】を押します。

4. メールの送受信をする

4.1 メールの送信～座標データ／JOB データ

座標データまたは JOB データを添付ファイルにして、本体からメールを送信します。座標データは SIMA フォーマットに、JOB データは TSS フォーマットに変換して、送信されます。*Bluetooth* 通信をする場合は、接続の設定をしておきます。

☞ トータルステーション取扱説明書「8.1 *Bluetooth* 通信の設定」

▶手 順

1. ＜ダイヤルアップ接続 メール送信＞を表示させる

＜ダイヤルアップ AP 設定＞のソフトキー 1 ページ目で【メール送信】を押します。

2. 送信するデータを選択する

「フォーマット」から送信するデータを選択します。

3. 送信する JOB を選択する

「JOB 選択」で送信する JOB を選択します。JOB を選択して【YES】を押すと、選択が確定します。再度【NO】を押すと、選択の確定が解除されます。複数の JOB を選択確定することができます。【ALL】を押すと、全ての JOB が選択確定されます。

送信する全ての JOB を選択したら【Create】を押します。

同じ JOB 名のデータを複数選ばないでください。

4. 送信先を選択する

「送信先」から送信先を選択します。送信先を選択して【YES】を押すと、選択が確定します。複数の送信先を選択確定することができます。【ALL】を押すと、全ての送信先が選択確定されます。

・ 選択を解除するには、送信先を選択して【NO】を押します。

送信先を選択したら【NEXT】を押します。

5. 送信方法を選択する

「アクセス方法」から通信方法を選択します。「アクセスポイント」からアクセスポイントの電話番号を選択します。

6. 送信する

【接続】を押すと、送信を開始します。「PPP ダイヤル中 . . . 」が表示されます。

7. 送信の完了を確認する

送信中は、現在送信中のレコード数が表示されます。

・ 送信する JOB を複数選択した場合は、１つのメールにつき、1 つの JOB が送信されます。

選択したすべての JOB を送信し終わると、回線が切断され、手順 1 の画面に戻ります。携帯電話は、「待ち受け画面」になります。

通信中に【切断】を押して中止すると、回線を強制的に切断して通信を終了します。【切断】を押した時点の JOB は、正常に送信されていない場合があります。

4.2 メール受信～座標データ

SIMA フォーマットの座標ファイルを添付したメールを読み込み、現在選択中の JOB に座標データとして追加登録します。

▶ 手 順

1. ＜ダイヤルアップ接続 メール送信＞を表示させる
＜ダイヤルアップ - メール送信＞で【メール受信】を押します。＜ダイヤルアップ AP 設定＞のソフトキー1 ページ目で【メール受信】を押します。

2. 受信方法を選択する
「アクセス方法」から通信方法を選択します。「アクセスポイント」からアクセスポイントの電話番号を選択します。

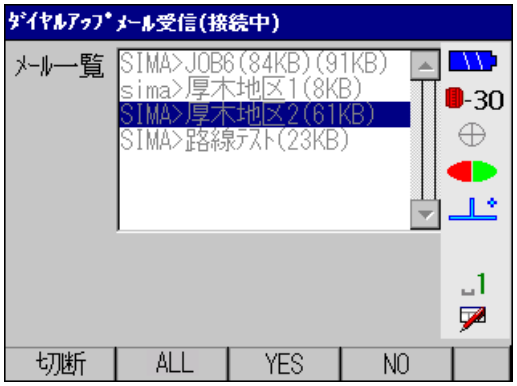
☞ 「3.2 通信条件の設定」

3. 受信する
【接続】を押すと、受信を開始します。本体には「PPP ダイヤル中 . . . 」が表示されます。

接続が成立すると、機械には受信中のメッセージが表示され、メールの受信を開始します。

4. 受信メールを確認する

メールサーバーにあるメールのうち、本体向けのメールが自動的に調べられます。メールを調べ終わると本体向けの受信メールがデータの種類とともに一覧表示されます。

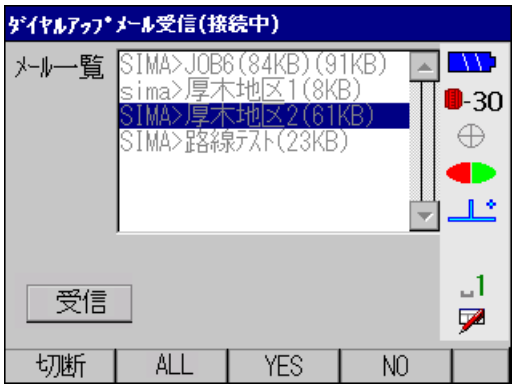


・「sima>」は SIMA フォーマットの座標データを示します。

5. 受信メールを読む

「メール一覧」で受信する座標データを選択します。座標データを選択して【YES】を押すと、選択が確定します。複数の座標データを選択確定することができます。

・ 選択を解除するには、送信先を選択して【NO】を押します。



受信する全ての座標データを選択したら【受信】を押します。

座標データが添付されたメールを受信すると、読み込み中のレコード数が表示されます。

・ 通信中に【切断】を押すと、回線を強制的に切断して通信を終了します。【切断】を押した時点で受信中のデータはすべて破棄されます。

読み込みが終わると、回線が切断され、データの変換が行われます。携帯電話は、「待ち受け画面」になります。データの変換が終わると、手順 1 の画面に戻ります。

4.3 トータルステーションへのメール送信

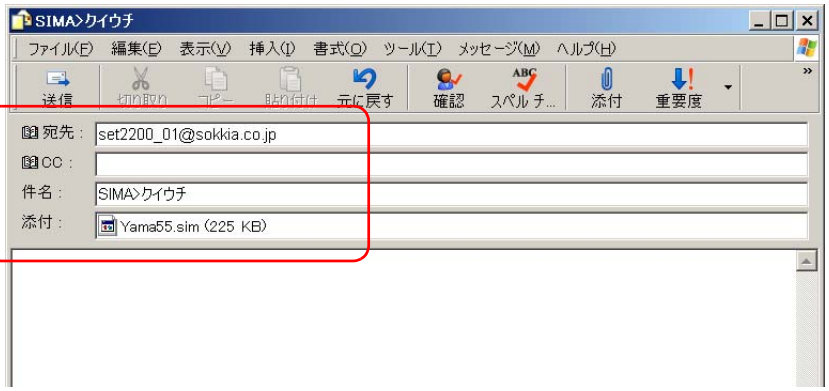
PC 側から、本体とメールの送受信をするには、一般のメールソフトが使用できます。

PC から本体へメールを送るには、通常のメールを送るのと同じように、本体に割り当てたメールアドレス宛にメールを作成し、SIMA フォーマットの座標ファイルを添付します。

本体側が受け取れるメールと区別するために、「subject（件名、題名）」には、「SIMA> ○○○○○○」のように、「SIMA>」から始まる文字列にしてください。

・「subject（件名、題名）」の文字列には、半角カナ文字は使用しないでください。
・本文に文字を入力しても、本体側では表示されません。
・本体が受け取れる添付ファイルは、1 つのメールにつき 1 ファイルだけです。
・添付ファイルの拡張子は "sim" としてください。

Microsoft Outlook Express 6 の例



本体は、受け取ったメールのうち、「subject」が「SIMA>」から始まるものを選び出して、メール一覧を表示します。

☞ メールソフトの詳しい使い方については、メールソフトの取扱説明書をご覧ください。

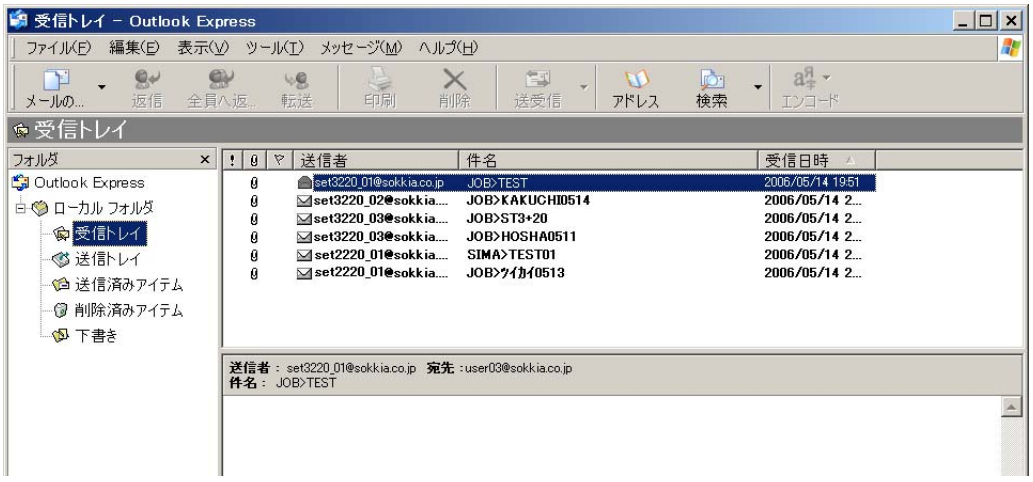
4.4 トータルステーションからのメール受信

PC 側で、本体からメールを受信するには、通常のメールを受信するのと同じように行います。

本体からのメールは、「subject」が「SIMA>」か「JOB>」で始まり、その後に JOB 名が続いた文字列になっています。

「SIMA>」から始まるメールは、SIMA フォーマットの座標ファイルが、「JOB>」で始まるメールは、TSS フォーマットの JOB ファイルが添付されています。

Microsoft Outlook Express 6 の例



☞ メールソフトの詳しい使い方については、メールソフトの取扱説明書をご覧ください。

5. エラーメッセージ

表示されるエラー表示と原因を以下に示します。同じ表示が繰り返し表示される場合や下記以外の表示が出た場合は、機械の故障が考えられます。最寄りの営業担当へご連絡ください。

エラーメッセージ	原因	対処方法
*Bluetooth*タイムアウト	*Bluetooth*の接続に失敗しました。	設定や機器の電源を確認してください。
Bluetooth パラメーターエラー	*Bluetooth*の接続に失敗しました。	設定を確認してください。
JOBが選択されていません！	送信するJOBが選択されていません。	JOB を選択して、もう一度送信してください。
JOBリスト取得エラー(DLL)	メールサーバーにあるメールのうち、トータルステーション向けのメールを調べるのに失敗しました。	もう一度、メールを受信してください。
POPサーバーが未入力です	POPサーバーが未入力です。	＜ダイヤルアップ AP 設定＞で POP サーバーの IP アドレスを登録してください。
POP サーバー接続 Check エラー	POPサーバーとの通信に失敗しました。	サーバーの返答にエラーが生じたか､POPサーバーの設定に間違いがあったため、正常にログインできなかったことが考えられます。パラメーターを確認して、再度接続してください。
POP サーバー接続エラー	POPサーバーとの通信に失敗しました。	＜ダイヤルアップAP設定＞の設定を確認してください。回線がつながりにくくなっていることも考えられますので､時間をおいて接続してください。
POPサーバーのログイン名､パスワードが未入力です	POPサーバーのログイン名､パスワードが未入力です。	＜ダイヤルアップAP設定＞でPOPサーバーのログイン名とパスワードを登録してください。
PPP 接続開始エラー	表示された電話番号に対してダイヤルアップ接続できませんでした。	機器の電源､ケーブルの接続を確認してください。回線がつながりにくくなっていることも考えられますので、時間をおいて接続してください。
PPP 接続エラー (Windows のメッセージが続いて表示*)	接続中にエラーが生じました。	電話番号と機器の設定を確認して、もう一度接続してください。
SIMA作業20Kオーバーエラー (DLL)	1現場あたりのデータ数の制限を超えてしまいました。	1 現場あたりのデータ数を 20000 以下に分割してください。
SIMA 作業 RAM エラー(DLL)	メモリーが足りません。処理を中止します。	SDR モードで、不要な現場を削除したり、バックアップ保存したりして、十分なメモリーを確保してください。
SIMA 作業ドライブエラー (DLL)	メモリーが足りません。処理を中止します。	SDR モードで、不要な現場を削除したり、バックアップ保存したりして、十分なメモリーを確保してください。

*: Windows のメッセージについては、http://support.microsoft.com/kb/163111/ja をご覧ください。

エラーメッセージ	原因	対処方法
SIMA ファイルフォーマットエラー（DLL）	添付された座標ファイルにフォーマットの異なるものがありました。読み込みを中止します。	添付ファイルの SIMA データを確認してください。なお、途中まで読み込んだ座標ファイルは保存されています。
SMTP サーバーが未入力です	SMTP サーバーが未入力です。	＜ダイヤルアップ AP 設定＞で SMTP サーバー名を登録してください。
SMTP サーバー接続エラー	SMTP サーバーのユーザ認証が必要です。	＜ダイヤルアップ ISP 設定＞の「POP before SMTP」にチェックをしてください。
該当するメールがありません	SIMA ファイルが添付されたメールは届いていません。	
コネクトに失敗しました	*Bluetooth*の接続に失敗しました。	設定や機器の電源を確認してください。
差出人メールアドレスが未入力です	差出人メールアドレスが未入力です。	＜送信先メールアドレス設定＞でメールアドレスを登録してください。
送信用ファイル名変更エラー	送信用ファイルにエラーが生じました。	同じJOB名のデータを複数同時に送信できません。同じ JOB 名のデータを送信するときは、分けて送信してください。
添付ファイル無しエラー	受信したメールには、添付ファイルがありませんでした。	添付ファイルを付けて、もう一度メールを送信してください。
メール削除エラー	受信したメールをサーバーから消すのに失敗しました。	再度受信して消すか、Telnet 等で消してください。

6. こんなときは

座標データまたは JOB データを添付ファイルにして、本体からメールを送信します。座標データは SIMA フォーマットに、JOB データは TSS フォーマットに変換して、送信されます。

ここでは、ご使用中に起きる可能性のある問題を想定して、その確認事項と対処方法を説明します。ここに記載されていない問題がおきた場合や、記載されている対処方法で解決できない場合は、最寄りの営業担当にご連絡ください。

通信中に電源 OFF になった

通信中にバッテリーの交換時期になってしまったら、バッテリーを交換して通信の続きをすることが出来ません。通信を行うときはバッテリーの残量を確認してから行ってください。

なお、通信中にバッテリーの交換時期になってしまった場合、回線がつながったまま電源が OFF になってしまいます。回線をいったん切ってから、残量が十分なバッテリーと交換してください。

メールは正しく通信されていない可能性があります。メールを確認の上、必要なら再度メールの送受信を行ってください。

通信中に回線が切れたが、本体がすぐ復帰しない（「PPP ダイヤル中･･･」のままになっている）

通信中に何かの理由で回線が切れた場合、タイムアウトによってプログラムは処理を終了しますが、復帰に時間がかかることがあります。その場合は〔ESC〕を押せば、早く復帰させることができます。

なお、メールは正しく通信されていません。再度メールの送受信を行ってください。

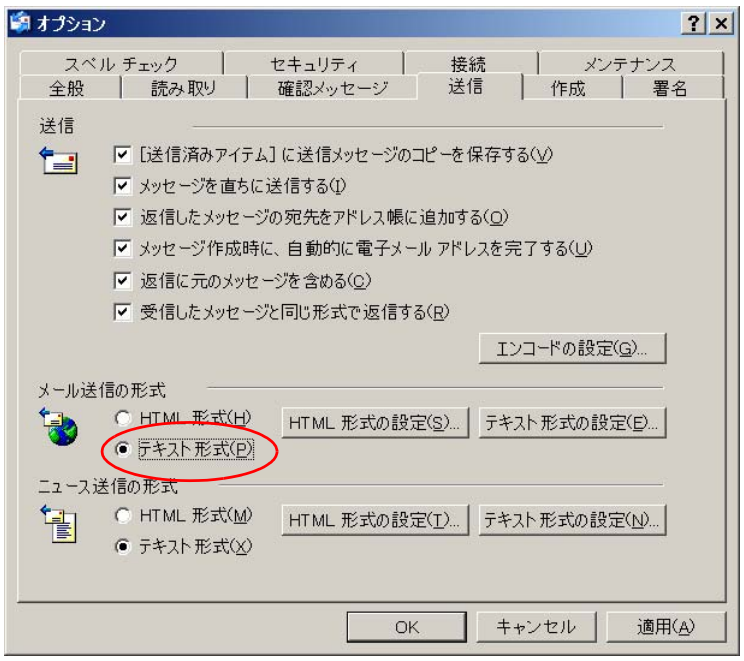
通信が失敗する

(1) 電波状況
なるべく携帯電話のアンテナのインジケーターが 3 本立つような場所で、通信をするようにしてください。屋内では電波強度が弱くなり、通信中に回線が切断することがあります。サービスエリアについては、ご加入の通信会社にお問い合わせください。その他、お使いの携帯電話の取扱説明書などもお読みください。

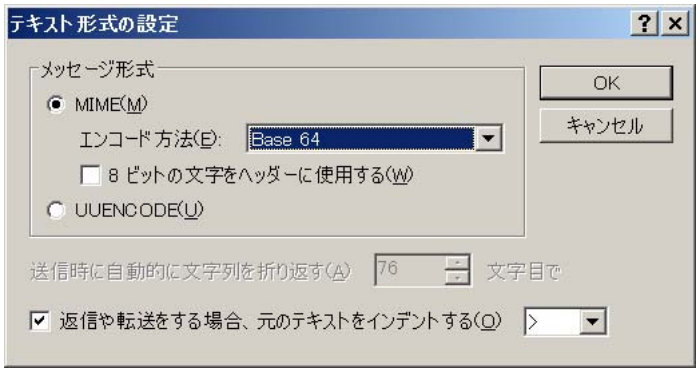
(2) ファイルサイズを小さくする
送受信するファイルを分割して、一回に送るファイルサイズを小さくしてください。一度に送れるファイルサイズは、通信環境やご使用の通信機器により異なります。2,000 ～ 3,000 レコードをめやすに、ご使用環境にあったサイズをご確認ください。

(3) メールソフトの設定について
メールソフトの設定によって、通信が失敗することがあります。次の設定画面を確認してください。また、添付ファイルがあるにもかかわらず「添付ファイル無しエラー」が表示される場合は、メール本文に適当な文を入れてください。

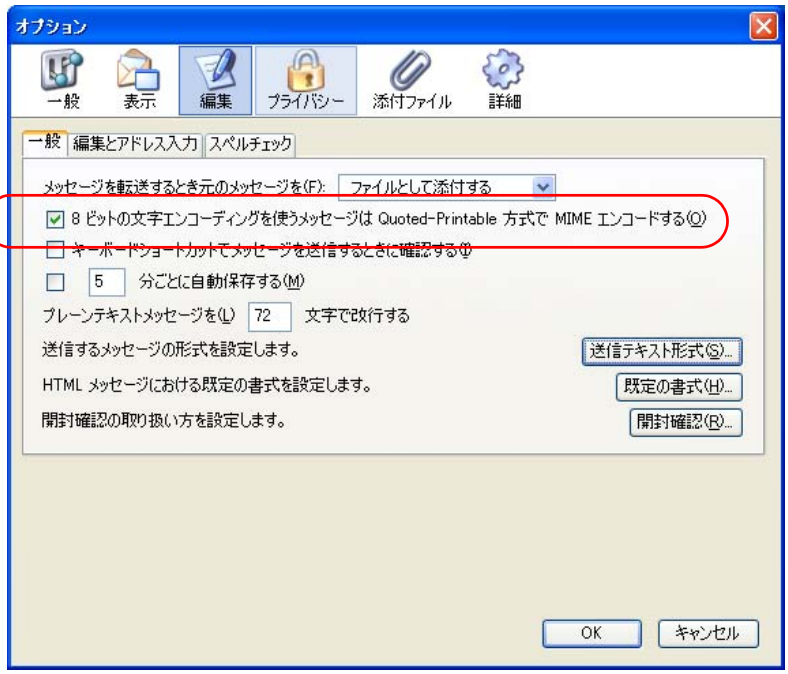
i) Microsoft Outlook Express 6 の場合
メニューの「ツール」-「オプション」を選択して、次のウィンドウを開きます。「送信」タブの「メール送信の形式」を「テキスト形式」に設定します。



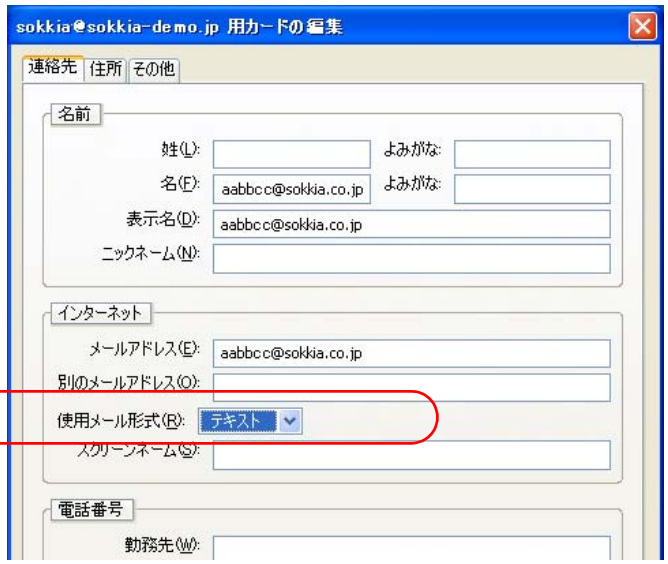
上記ウィンドウの「テキスト形式の設定」ボタンを押して次のウィンドウを開きます。「メッセージ形式」は「MIME」を、「エンコード方式」は「Base64」を選択します。「8 ビット文字をヘッダーに使用する」のチェックボックスは、チェックをはずします。



ii) Thunderbird バージョン1.5の場合
メニューの［ツール］-［オプション］-［編集］-［一般］で開くウィンドウは、以下のように設定してください。



また、アドレス帳の該当アドレスを右クリックして、「プロパティ」選択します。
「連絡先」タブを以下のように設定してください。



お問い合わせ先

株式会社 ソキア販売

東京都板橋区小豆沢1-5-2　〒174-0051
TEL 03-5915-6560　FAX 03-5915-6658

株式会社ソキア・トプコン

http://www.sokkia.co.jp

神奈川県厚木市長谷260-63 〒243-0036

Ver.1.05
第7版08-1007

©2006　株式会社ソキア・トプコン